

# 北九州市における超小型モビリティ導入促進の取り組みについて

北九州市 産業経済局 新産業振興課

## 1. はじめに

北九州市では、国土交通省「超小型モビリティの導入促進事業」の採択を受け、平成25年11月2日から超小型モビリティの導入事業を開始しました。本稿では、本市において低炭素社会の実現に向けて実施している超小型モビリティの導入促進の取り組みについて、ご紹介します。

### (1) 北九州市の概要

本市は古くより、東アジア交流の玄関口としての役割を担っており、人的・物的交流が盛んに行われてきました。地勢的には、北九州市を中心として、500キロの距離に大阪、神戸、韓国のソウル、仁川があります。そして、1,000キロの距離に、東京、中国の上海、大連があり、韓国、中国に非常に近いことが特徴です。

現在の北九州市の人口は約97万人、1963年2月に、全国に先駆けて、5つの市(門司、小倉、若松、八幡、戸畑)が合併して誕生した政令指定都市であり、平成25年2月に市制50周年を迎えました。

### (2) 「世界の環境首都」を目指して

1901年に日本初の官営製鐵所が建設され、以来、本市は日本の四大工業地帯として発展してきました。新日鐵、三菱化学、出光興産、日本水産等の発祥の地であり、日産自動車のルーツである戸畑鋳物が創業を開始した地でもあります。また、TOTO、安川電機、三井ハイテック、ゼンリン等の本社が所在しており、鉄鋼・機械等の基幹技術と金型、メンテナンス等の基盤技術、人材の集積により、現在も、ものづくりのまちとして、地域の産業の発展を支えています。

一方で、経済発展に伴い深刻な公害が発生し、これを、市民運動をきっかけに企業や行政が一体となって克服した歴史があります。このような背景のもと、「環境」と、ものづくり企業の集積を基盤とした「技術」を強みとして、世界の環境首都、アジアの技術首都を目指したまちづくりを進めており、近年では、平成23年6月にOECD(経済協力開発機構)より、都市のグリーン成長政策を評価し、世界への政策提言として役立てるグリーンシティプログラムのモデル都市として、アジアで初めて選定されました(その他のモデル都市:パリ、シカゴ、ストックホルム)。また、平成23年12月には、本市が国へ提案した「北九州市環境未来都市」と、福岡県・北九州市・福岡市が共同申請した「グリーンアジア国際戦略総合特区」の選定を受けました。

平成25年3月には、産業面の取り組みを推進する基本戦略として「北九州市新成長戦略」を策定しました。そのリーディングプロジェクトのひとつとして、次世代自動車産業拠点の形成を掲げ、公道での次世代自動車の実証実験などに取り組むこととしています。

## 2. 超小型モビリティ導入に向けた推進体制

### (1) 日産自動車との連携協定「環境と技術のまち北九州“e-フロンティアプロジェクト”」

本市は、平成21年12月、環境と産業が調和したまちづくりを相互に協力して行うことにより、低炭素社会の実現を目指す連携協定「環境と技術のまち北九州“e-フロンティアプロジェクト”」を日産自動車と締結しています。

このプロジェクトでは、「環境面で先進のまちづくり」、「低炭素社会に貢献する技術開発」、「環境を未来に引き継ぐ人材の育成」に連携して取り組んでおり、まちづくりの面では、超小型モビリティの導入に関する事業の他にも、「EV の公用車への導入」や「充電施設の整備」、技術開発面では「EVのITシステムに関する技術開発」、人材育成では、北九州学術研究都市の「北九州市立大学」、「九州工業大学」、「早稲田大学」の3つの大学院が共同で実施している「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」への講師派遣等について、本市と日産自動車と相互に連携を図りながら共同で実施しています。

超小型モビリティの導入促進に向けては、環境面での先進のまちづくりを推進する事業に位置付け、本連携協定の一環として実施しています。

### (2) 特定非営利活動法人タウンモービルネットワーク北九州

タウンモービルネットワーク北九州は、CO<sub>2</sub>削減など都市環境問題を課題として、自転車の利用促進のための社会システムの構築（レンタサイクル事業やカーシェア、駐車場・駐輪場施設の管理・運営など）を通じて、環境にやさしいまちづくりの推進、高齢者等の福祉の増進に寄与することを目的として、平成14年より本市を中心に活動している NPO 法人です。

平成15年より、本市を代表する観光地「門司港レトロ地区」で実施している観光型レンタサイクル事業では、電動アシスト自転車を中心に約150台を設置し、年間延べ約1万2千人の観光客が利用する、門司港レトロ地区にかかせない移動手段として定着しています。

平成22年には、世界初の電動自転車によるシェアリングシステム「シティバイク」事業を開始しております。このシティバイク事業は、主に本市中心部にサイクルステーション13箇所、電動アシスト自転車約150台を設置し、24時間どこでも利用、返却ができるもので、過度なマイカー利用から、公共交通や自転車への転換に貢献しています。

その他、構造改革特区を活用した事業所向けのレンタカー型カーシェアリング事業や市内一円160kmの公道でサイクリングを楽しむ「サイクルツアー北九州」などを実施しています。

超小型モビリティの導入促進事業では、本市とタウンモービルネットワーク北九州の共同で平成25年5月に「北九州市超小型モビリティ導入促進協議会」を設立し、事業の実施主体として、観光客や市民に、超小型モビリティの魅力を伝えていくとともに、環境にやさしい交通手段への転換や安全確保など、これまでのノウハウを活かして、本事業を本市と共に推進しています。

## 3. 平成24年度の取り組み

### (1) 門司港レトロ地区での実証実験

本市は平成24年度、日産自動車と共同で本市の観光エリアである門司港レトロ地区において、超小型モビリティの実証実験を実施しました。

門司港は、九州の最北端に位置しており、明治の後半から横浜、神戸と並ぶ国際貿易港として栄えたところです。当時の面影を残すレトロな建築物が数多く残っており、施設の移築、景観の整備等を経て、現在では、年間約200万人の観光客が訪れる、本市を代表する観光スポットです。

中心エリアには、国の重要文化財の「JR 門司港駅」や、同じく国の重要文化財でアインシュタインが宿泊した「旧門司三井倶楽部」などの施設が立ち並び、対岸の山口県下関市側には「ふぐ」で有名な唐戸市場があります。

## (2) 平成24年度実証実験(観光エリアでの公道実証)の概要

実施期間:平成24年10月6日(土)~21日(日)

【体験試乗会:10月6日(土)~7日(日)、公道走行実証:10月8日(月)~21日(日)】

実施場所:門司港レトロ地区(北九州市門司区)

実施内容:観光客の利用を想定したレンタカー事業

使用車両:NISSAN New Mobility Concept 2台

参加人数:104名

本実証実験では、

- ・ 徒歩や自転車では移動が難しい距離にある観光スポットへの移動支援
- ・ 家族連れや団体客、子供や高齢者といった観光客の特性に応じたモビリティの提供
- ・ 環境に優しい移動手段の提供
- ・ 道路や駐車場など、走行環境の状況把握、課題の検討

などをテーマに実施しました。

実施方法は、20代から70代の市民を中心としたモニターを事前に公募し、1人あたり最長2時間の貸出を行いました。操作方法の指導や、公道での習熟走行を実施した後、実際に門司港レトロ地区を自由に走行、観光スポットを巡っていただき、貸出後はアンケートとヒアリングを行い、超小型モビリティに対するニーズや移動手段としての特徴等に関する調査を実施しました。

また、本実証の特色として、超小型モビリティのほか、電動アシスト自転車や電動スクーター、高齢者には電動カートの貸出も無料で行い、「徒歩」、「自転車」、「電動スクーター」、「超小型モビリティ」間の比較評価の試みも行いました。



平成24年度実証実験の様子

## (3) 平成24年度実証実験実施結果

実証実験のアンケートの結果から、以下のような結果が得られました。

- ・ 超小型モビリティの利用による「楽しさ」と「回遊性の向上」について、特に高い満足度を示し、

門司港レトロ地区を過去に訪れた経験との比較評価の結果、これらの点について観光地の魅力が向上したといえる。

- ・ 超小型モビリティ実証実験参加者の門司港レトロ地区滞在時間は、2時間以上の滞在者が50%を超え、過去の門司港レトロ地区訪問時の滞在時間(2時間以上が31%)を上回り、滞在時間の延長効果がみられた。この点については、実証実験参加時間が加算されるため、当然の結果ともとれるが、
- ・ 超小型モビリティを使用した観光レンタカー事業が実際に実施された場合、「利用したい」と回答した人が全体の85%を占めたことを踏まえると、超小型モビリティの導入により、観光地の滞在時間延長に一定の効果があるものと想定される。
- ・ 観光地での実証実験であったにもかかわらず、超小型モビリティの利用シーンとして「買い物」に適していると回答する人が多かった。

以上の結果を踏まえ、平成25年度の超小型モビリティの導入促進事業に向けて、準備を進めてきました。

#### 4. 国土交通省「超小型モビリティの導入促進事業」北九州市の取り組み

##### (1) 北九州市超小型モビリティ導入促進事業の概要

実施期間:平成25年11月2日(土)～3年間

→平成28年4月以降は補完(自主)事業として実施予定

実施主体:北九州市超小型モビリティ導入促進協議会(平成25年5月設立)

構 成 員:①北九州市、②NPO 法人タウンモービルネットワーク北九州

会 長:北九州市長 北橋 健治

実施場所:北九州市門司区、小倉南区、小倉北区

使用車両:NISSAN New Mobility Concept 4台

事業内容:

平成25年度、国土交通省より選定を受けた「超小型モビリティの導入促進事業」は、

- ・ 観光地での回遊・周遊の際の移動手段として、『門司港レトロ地区における「超小型モビリティ」を活用した観光レンタカー事業』
- ・ 近距離の日常交通手段等として、『小倉南区における「超小型モビリティ」を活用した青色防犯パトロール・買い物支援等試行事業』
- ・ 『「超小型モビリティ」体験イベント等 PR 事業』

の3つの事業で構成しております。

以上の事業により、超小型モビリティを活用したビジネスの事業化促進、NPO との協働による、超小型モビリティを活用した地域支援及び地域の活性化に取り組むことを目的としております。

本稿では、①観光地での回遊・周遊の際の移動手段として、『門司港レトロ地区における「超小型モビリティ」を活用した観光レンタカー事業』を中心に紹介します。

##### (2) 門司港レトロ地区における超小型モビリティを活用した観光レンタカー事業

昨年度の実証実験の結果を踏まえ、平成25年度からは新たに「走行可能エリアの拡大」と「有

料化」の2点について取り組みました。

「走行可能エリアの拡大」については、昨年度に実施した走行エリアを南西方向に JR 門司駅まで、面積としては約2倍に拡大しました。

新たに事業実施エリアとなる JR 門司駅周辺には、大正2年に建設された旧サッポロビール九州工場の施設を保存活用した建物群が残っており、ビール醸造棟の見学が出来るほか、ギャラリーや飲食などを楽しめるスペースとなっています。

門司港レトロ中心エリアから門司駅周辺までの距離は約6.5Km、自転車やJRでの移動は可能ではあるものの、門司港レトロ地区と門司駅周辺を周遊する観光客は少なく、一体的な観光地ではありません。そこで、超小型モビリティの活用により、門司港レトロ地区と門司駅周辺の回遊性の向上を図り、観光地の魅力向上をねらい、走行可能なエリアを拡大しました。

門司駅までの間では、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘の舞台として有名な「巖流島」を見ることが出来るなど、超小型モビリティの導入により、門司港レトロを訪れる観光客に新たな楽しみを提供したいと考えています。また、昨年度の実証実験と同様、門司港レトロ地区の北側に位置する「めかり地区」も事業実施エリアとしました。

めかり地区は関門海峡に面する山頂一体を、公園として整備しているところです。門司港レトロ地区の中心エリアからも近く、山頂付近の展望台からは門司港レトロ地区や関門海峡、関門橋を一望できる、景観の良いところですが、海岸からの高低差が約160mあり、急な勾配のため、自家用車などでなければ行くことが難しく、大型バスや公共交通機関で門司港レトロ地区を訪れた観光客がめかり地区を訪れるのは難しい状況です。

超小型モビリティのレンタル事業を実施することにより、めかり地区へも観光客が気軽に訪れることができるようになり、回遊性の向上による、観光地の魅力向上に繋がるものと期待しています。また、急峻な勾配を有するフィールドは、超小型モビリティの登坂性能を十分活かし、キビキビとした走りを観光客に楽しんでいただけるものと考えております。

「有料化」については、当初は1台あたり30分ごとに1,000円と設定いたしましたが、適正な料金の検討は引き続き行い、飲食店やホテル等と連携したサービスの提供等も実施していく予定です。

その他、インターネットによる予約や、ツーリングマップの配布による推奨ルートの案内などを実施し、利用者の利便性向上を図っています。

なお、門司港レトロ地区では、NISSAN New Mobility Concept 2台使用しています。

国土交通省「超小型モビリティの導入促進事業」北九州市の取り組み  
 事業① 門司港レトロ地区における観光レンタカー事業

**事業概要** 本市を代表する観光地区「門司港レトロ」を訪れる観光客に超小型モビリティを貸し出す観光レンタカー事業を実施する。徒歩での移動が難しい地域への移動支援や、走行中に自然を体感できる楽しさを提供することで、回遊性の向上や滞在時間の延長、観光地の新たな魅力の創出を図る。

**運営主体** 特定非営利活動法人タウンモービルネットワーク北九州 (TMN北九州: レンタカー事業者)

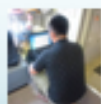
**実施内容**

- ◆運行日: 無休(但し、1月1日、2日及び懸天祭日は休日)
- ◆運行時間: 10:00~17:00(但し、3月~10月は18:00迄延長)
- ◆貸し出し場所: 「JOYINT門司港」(北九州市門司区車場町)  
TEL:093-321-2272
- ◆人員体制: 常駐スタッフが対応 平日: 2名 土日・祝日: 3名
- ◆レンタル料金: 1,000円/30分
- ◆利用方法:
  - ・車両に空きがあれば即時貸し出し
  - ・事前の予約も可(10:00~, 12:30~, 15:00~の1日3回予約受付)
  - ・30分単位で貸出(原則最長2時間まで)
- ◆導入車両・台数  
NISSAN New Mobility CONCEPT 2台



★インターネットによる予約

★ツーリングマップの配布  
 一推定ルートの案内  
 一観光施設やホテル、  
 飲食店との連携も検討



★観光説明、  
 沿道走行の楽しさ



★GPSによる  
 位置情報記録、  
 走行データ収集

**目的・期待する効果**

- ◆徒歩での移動が難しい地域への移動支援等により、回遊性向上や滞在時間の延長等、観光地の新たな魅力の創出。
- ◆レンタカーやカーシェア等、超小型モビリティを使用したビジネスモデルを検証し、モビリティビジネスの事業化を促進する。

国土交通省「超小型モビリティの導入促進事業」北九州市の取り組み  
 事業① 門司港レトロ地区における観光レンタカー事業





北九州市超小型モビリティ導入促進事業開始式の様子

## 5. むすびに

少子高齢化が進展する中、生活の質や利便性を高めるツールとして、また、環境にやさしい新たな移動手段として、超小型モビリティ導入に対しては非常に大きな反響をいただいています。

とりわけ、観光レンタカー事業は、新しい乗り物による新しいビジネスモデルが創出される手ごたえを感じているところです。

本事業は、2年目を迎えます。超小型モビリティに対する期待や意見など、市民の声を参考にしながら、地域に密着した事業に真摯に取り組むとともに、超小型モビリティの魅力を地域に発信していきたいと考えています。

本市の取り組みが、超小型モビリティを活用した低炭素まちづくりの事例として、超小型モビリティの導入を検討する際の一助となれば幸いです。



大宮市宮内地区の魅力を最大限に生かせる体験型観光プラン

超小型電気自動車体験付き  
門司港レトロ観光プラン

超小型電気自動車は100%電気で動力源が水素燃料でないこと、人間の力で、重い荷物を運ぶことも可能で、思った通りに走ることができ、また、超小型電気自動車は1台の1時間レンタルになったプランです。体験できるだけでなく、大宮の観光名所へも移動が、観光する時間が短い方でもスムーズな観光ができますよ！大宮の観光名所を最新の超小型電気自動車で観光してみたい方はぜひ！

- 2014年3月1日(土)～5月31日(土)
- ツインダブル
- お一人様 8,000円(税別)
  - ※お食事代別 税別2,000円
  - ※お土産代別 税別2,000円
- 朝日新聞以上のウェブニュース掲載

【超小型電気自動車レンタルの注意事項】

- 貸出時間：10時～18時
- 予約は前日までに実施ください(当日予約は不可)
- 貸出場所：大宮駅西口(大宮駅西口駅前)の指定した場所にて貸出いたします
- 貸出場所：大宮駅西口(大宮駅西口駅前)の指定した場所にて貸出いたします
- 貸出場所：大宮駅西口(大宮駅西口駅前)の指定した場所にて貸出いたします
- 貸出場所：大宮駅西口(大宮駅西口駅前)の指定した場所にて貸出いたします
- 貸出場所：大宮駅西口(大宮駅西口駅前)の指定した場所にて貸出いたします
- 貸出場所：大宮駅西口(大宮駅西口駅前)の指定した場所にて貸出いたします



- 貸出時間：10時～18時
- 予約は前日までに実施ください
- 貸出場所：大宮駅西口(大宮駅西口駅前)の指定した場所にて貸出いたします
- 貸出場所：大宮駅西口(大宮駅西口駅前)の指定した場所にて貸出いたします

超小型電気自動車  
「超小型電気自動車」  
1台を1時間レンタル



お一人様からご利用  
貸出時間：10時～18時  
予約は前日までに実施ください

3月限定  
お一人様 500円OFF +  
ウエルカムドリンクサービス